

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2005～2008
 課題番号：17530559
 研究課題名（和文） 実践的指導力育成のための
 教員養成プロフェッショナル・スタンダードの開発
 研究課題名（英文） The Development of Professional Teaching Standards
 Towards the Construction of Prospective Teachers' Competencies
 研究代表者
 土井 進 (DOI SUSUMU)
 信州大学・教育学部・教授
 研究者番号：30242663

研究成果の概要：

本研究は、実践的指導力を備えた教員を育成する教員養成プログラムを開発する際の指針となる「プロフェッショナル・ティーチング・スタンダード」を開発するための基礎研究を行った。他大学及び諸外国で作成が進んでいる教員スタンダードに関する情報収集と分析を行った。また、教員採用側が教員に求める資質能力を明らかにするために、教員採用試験募集要項を分析し、採用側が考えている望ましい教師像を抽出した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	1,500,000	0	1,500,000
2006年度	500,000	0	500,000
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,400,000	420,000	3,820,000

研究分野：教師教育学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教師教育，教員養成，臨床経験，教育実習，連携，教員評価，省察，リフレクション

1. 研究開始当初の背景

日本教育大学協会「モデル・コア・カリキュラム」研究プロジェクトや国立大学教育実践研究関連センター協議会では、教育現場における実践・体験とそれを踏まえた研究的省察とを旨とした「教員養成コア科目群」や教師の職能基準と講義科目との対応の試案を提案している。しかし、各科目のねらいや科目群の構成枠組みが提案されているにとどまり、それらの科目群を通してどのような資質能力を備えた教員を養成するかは明示さ

れていないし、教育実習関連科目の評価規準を明らかにしてはいない。日本版 PT スタンダードの開発は、これらの提案を具体化・実質化する指針となる。

開発されたプロフェッショナル・ティーチング・スタンダードを用いることで、現在設置が検討されている専門職大学院や6年制教員養成プログラムを編成する際に必要となる、体験的実習科目を基軸とした科目編成の方針を提示できる。また、各教職専門科目・教科専門科目の内容を設定する際に、プ

ロフセッション・ティーチング・スタンダード中の位置づけを考慮できる。さらに、これらの新しい教員養成プログラムを通して育成される教師像が規定可能になることと合わせて、学部と附属がそれぞれ蓄積してきた教育実習に関する知と経験を有機的に結びつけることができ、「臨床教育推進室」主導による学部－附属が連携・一体となった教員養成体制を築くことができる。

2. 研究の目的

実践的指導力を備えた教員を育成する教員養成プログラムを開発する際の指針となる「プロフェッショナル・ティーチング・スタンダード」を開発し実用化することを目的とする。この目的達成のために、本研究では次の5点について検討する。

(1) 米国における州および連邦レベルのプロフェッショナル・ティーチング・スタンダードの基本枠組みは何か？

米国における教員養成および教員免許認定・更新は、現職教師や教職志望学生が備えるべき資質能力を広範かつ客観的に示すPTスタンダードに準拠している。そこで、先進的な取り組みをしている米国のプロフェッショナル・ティーチング・スタンダードの特質を明らかにした上で、日本の教師教育への適用可能性を検討する。

(2) 21世紀の子どもたちを支援する教師に期待される「望ましい教師像」は何か？

日本の各県等教育委員会では独自の「教師像」に基づき教員を採用・選考する。一方、教員養成大学・学部の各教職専門科目や教科専門科目ではどのような教師を育てるか明確でない。そこで、教員採用側（教育委員会）及び教員養成側（大学・附属学校）が捉える「望ましい教師像」を明らかにする。

(3) 教員養成の各学年段階で育成される実践的指導力の基礎は何か？

教員養成カリキュラムに多く導入されている体験的実習科目において教師としての発達段階・成長過程に合わせてどのような体験と省察を提供する科目を設定すればよいか実証的に明らかにする。いわば教員養成版“学習指導要領”の開発と実施により体験的実習科目の到達目標と評価基準を規定する。

(4) ティーチング・ポートフォリオをどのように使えば効果的なリフレクションを促進できるか？

作成したティーチング・ポートフォリオを活用したリフレクションの促進には、自己評価・学生間相互評価・実習校の指導教員および大学教員とのカンファレンスをどのように連携させればよいか、自己評価をさらに精錬するための相互評価の設定方

法や学部・附属学校教員の関わり方を検討する。

(5) 教育実習における教員養成学部教員－附属学校教員連携システムはどのようなものか？

開発したプロフェッショナル・ティーチング・スタンダードに準拠した体験的実習科目を教員養成学部入学から卒業までを通して附属学校で実施するために、学部教員は、担当科目とプロフェッショナル・ティーチング・スタンダードの関連をどのように図ればよいのか、附属学校教員とどのように連携しながら教職志望学生の成長を支援するか、Teacher Educatorとしての教育学部教員の在り方を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 信州大学教育学部「臨床教育推進室」設置による学部－附属の連携のあり方の検討

「臨床教育推進室」が中心となって体系的な臨床経験科目を企画・実施する中で、教科専門科目・教科教育科目・教職科目等を担当する学部教員や附属学校園・関連教育機関教職員との連携のあり方を提案する。このような体制で臨床経験科目を実施・研究しながら、学部教員が臨床経験科目や附属学校園の教育活動に積極的に関わる体制を整えることは、教員養成学部としてのあり方の新提案につながる。

(2) 教員養成系大学・学部における教育実習関連科目のシラバスの収集及び同附属学校園における教育実習の評価規準の収集と分析

教育実習の実施状況（期間・実習校等）については、国立大学教育実践研究関連センター協議会教育実践教師教育部会や日本教育大学協会教育実習部門による実態調査が行われているが、教育実習の目的やねらい、そして実習校における評価観点・規準に焦点化した研究は行われていない。そこで、教員養成系大学・学部および同附属学校園は教育実習生にどのような資質能力を身につけさせようとしているのかを明らかにするために、教育実習（関連科目も含む）のシラバスと評価観点・規準を収集し、学年段階ごとの指導の重点移行を視点に分析を行う。

(3) 都道府県・政令指定都市における教員採用試験募集要項の収集及び教員評価検討委員会や指導力不足教員検討委員会等の審議記録の収集と分析

教員採用試験の募集要項に「選考における評価観点」が最近になって明示されるようになった。また、指導力不足教員検討委員会等では教員に求められる資質能力が審議されている。そこで、教員免許を発行し教員を採用する教育委員会はどのような

資質能力を身につけた教員を求めているのかを明らかにするために、教員採用試験募集要項や指導力不足教員検討委員会等の審議記録を収集する。

(4) 米国における州レベルおよび連邦レベルのプロフェッショナル・ティーチング・スタンダードの収集と分析

米国で作成されている連邦レベル(INTASC, NBPTS, NCATE等)や州レベル(例えば、イリノイ州の場合は Illinois Professional Teaching Standards)のプロフェッショナル・ティーチング・スタンダードを収集する。また、プロフェッショナル・ティーチング・スタンダードに基づく教員養成・教員免許認定・教員採用を行っている大学研究者や州教育委員会を訪問し、プロフェッショナル・ティーチング・スタンダードの開発理念を、特に日本の教師教育への適用可能性を考慮しながら調査する。合わせて、プロフェッショナル・ティーチング・スタンダードに基づく教員養成を行っている大学研究者を訪問し、プロフェッショナル・ティーチング・スタンダードに準拠した教員養成カリキュラムを編成するための教員養成大学・学部側の対応を実地調査する。そして、Professional Development Schoolにおける教員研修体制やNBPTSのような資格認定システムにおけるプロフェッショナル・ティーチング・スタンダードの位置づけや実際に教師に育成される実践的指導力の内実を検証する。

(5) 米国におけるポートフォリオの活用に関する資料収集

米国の教師教育、特に教員養成段階におけるティーチング・ポートフォリオの実践報告やそれらを支える理論研究に関する文献・資料を収集したり、ティーチング・ポートフォリオについて先駆的な研究・実践を行っている国内外の研究者や実践者を訪問・参観したりしながら、ティーチング・ポートフォリオの構成要素とプロフェッショナル・ティーチング・スタンダードとの関係を中心に分析する。

(6) 教員養成初期段階におけるプロフェッショナル・ティーチング・スタンダードの試行的作成

成果を総括し、臨床経験科目で実践するためのプロフェッショナル・ティーチング・スタンダードを開発、そして、それに基づく1年次生対象の臨床経験科目の内容構成を検討する。

4. 研究成果

(1) 「信州大学教育学部臨床教育推進室」において、教育学部附属学校園及び長野市・松本市内小・中学校の教職員との連携を推進し

ながら、教職志望学生、特に1・2年次生の臨床経験の内容と評価について検討した。その結果、「教育臨床基礎」「地域教育演習」等の授業科目において、教職志望学生に臨床経験の場を提供することができた。

(2) 他大学及び諸外国で作成が進んでいる教員スタンダードに関する情報収集を行った。特に、次の2つの教員スタンダードを中心に情報収集を行った。その結果、教員養成段階における臨床経験に対応するスタンダードを作成する際には、現職教員研修における活用を視野に入れる必要性が明らかになったことと合わせて、教員養成初期段階における臨床経験においても、学生の課題意識を明確にした上で活動に参加することの有効性が検証された。

①鳴門教育大学において開催された、教員養成教育に関する国際シンポジウム「教員養成教育における学生の教育実践力育成と認定(出口)評価のあり方—教育実践力評価スタンダードの開発と意義—」に出席した。「授業構想力」「授業展開力」「授業評価力」の3観点から構成される「授業実践力評価スタンダード(鳴門スタンダード)」は、教育実習開始前、学部卒業時、10年経験者研修時という3つの段階に対応している。

②米国ワシントンDCにて開催されたNBPTS(National Board for Professional Teaching Standards)年次大会に出席した。5つのCore Propositionsを基本として、学校段階及び教科・領域に対応してスタンダードが設定されており、スタンダードを満たすことを証明することによって、優秀な現職教員はNational Board Certified Teachersとして認定される。

(3) 教育委員会はどのような資質能力を身につけた教員を求めているのかを明らかにするために、教員採用試験募集要項を分析し、採用側が考えている望ましい教師像を抽出した。例えば、長野県では、①子どもが好きで、教育への情熱と心身のたくましさを持っている人、②豊かな人間性と広い視野を持ち、子どもの前で正直になれる人、③幅広い教養と教科の専門的な知識・技術を持ち、常に向上しようとする人、④創造性、積極性及び行動力を持っている人、⑤同僚や保護者などと協力し、共に汗を流す意欲のある人、の5点を募集要項で「求める教師像」として提示している。これらは、中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」において教職実践演習(仮称)や免許更新講習で含めるべき事項である、①使命感や責任感、教育的愛情等、②社会性や対人関係能力、③幼児児童生徒理解や学級経営等、④教科・保育内容等の指導力、と関連している一方、教員養成段階だけでは十分に身につけることが難しい観点も含まれていることがわか

った。

(4) LiveText 社が開催したワークショップ (於: 米国イリノイ州シカゴ) に参加し、教師としての成長を蓄積するティーチング・ポートフォリオの効果的な利用に関する情報収集を行った。その結果、INTASC をはじめとする米国の教師教育において用いられているティーチング・スタンダードの基本構造を分析して、日本における教員養成に適用可能なティーチング・スタンダードのあり方を検討することができた。また、構築されたティーチング・ポートフォリオ・サーバを用いて、INTASC スタンダードに基づいて、教員養成初期段階における「臨床の知」の収集と分析を行った。また、半構造化面接法による聞き取り調査も行った結果、教職志望学生が「教育臨床基礎」を通して経験し学んだことを明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

- ① 土井進 「信大茂菅ふるさと農場」を教材とした総合演習 (米づくりと食育) の実践。『教材学研究』(日本教材学会), 20, 2009 年 3 月. 査読無
- ② 土井進 「信大茂菅ふるさと農場」10 年目の「人づくり」戦略—「信大茂菅農業義塾」の開設—。『地域ブランド研究』4, 2008 年 12 月, pp.79-95. 査読無
<http://hdl.handle.net/10091/2960>
- ③ 谷塚光典・東原義訓 「テキストマイニングによるティーチングポートフォリオ分析の試み—教員養成初期段階の学生のリフレクシオンの特質—」。『日本教育工学会第 24 回大会講演論文集』(日本教育工学会), 2008 年 10 月, pp.253-254. 査読無
- ④ Osawa, M., Sakai, H., Takahashi, W., Yatsuka, M. 「Evaluating Professional Development Seminars for English Teachers with Professional Teaching Standards and Electronic Portfolios」, Karen McFerrin, Roberta Weber, Roger Carlsen and Dee Anna Willis (Eds.), Proceedings of SITE2008: Society for Information Technology and Teacher Education 19th International Conference, 2008 年 3 月, pp.117-121. 発表は審査有
- ⑤ 村瀬公胤・谷塚光典・田中智之・中島健・岡村聡 「「教育臨床基礎」における『臨床経験ハンドブック』とハイビジョン遠隔授業研究システムの効果」, 『平成 18 年度信州大学教育学部 学部・附属共同

研究報告書』(信州大学教育学部), 2007 年 3 月, pp.68-70. 査読無

- ⑥ 伏木久始・山口恒夫・山崎保寿・越智康詞・武者一弘・村瀬公胤・東原義訓・谷塚光典, 蓄積する体験と深化する省察による実践的指導力の育成を目指した教員養成プログラムの実践. 日本教育大学協会第二常置委員会編『日本教育大学協会研究年報』第 25 集, 2007 年 3 月, pp.137-149. 査読無
- ⑦ Yatsuka, M., Higashibara, Y., Murase, M. 「How to Facilitate Student Teachers' Reflection on their Introductory Fieldworks in Schools and Communities with Electronic Teaching Portfolio」, Proceedings of Society for Information Technology and Teacher Education 17th International Conference, 2006 年 3 月, pp.220-224. 発表は審査有
- ⑧ 村瀬公胤・谷塚光典・土井進・鎌田真幸・赤羽敬子・頓所本一 「「教育臨床基礎」における教職志望学生の成長とそれを支えるリフレクシオン」, 『平成 17 年度信州大学教育学部 学部・附属共同研究報告書』(信州大学教育学部), 2006 年 3 月, pp.125-130. 査読無
- ⑨ 村瀬公胤・土井進・谷塚光典 「教員養成初期段階における学生のリフレクシオン—信州大学教育学部附属松本学校園における「教育臨床基礎」の実践から—」。『教育実習研究』(日本教育大学協会全国教育実習部門) 第 19 集, 2006 年 3 月. 査読無
- ⑩ 村瀬公胤・谷塚光典・土井進・山口恒夫・山崎保寿・越智康詞・伏木久始・武者一弘 「信州大学教育学部における臨床経験科目の体系化—「臨床教育推進室」の設置を通して—」, 『平成 17 年度日本教育大学協会研究集会報告集』, 2006 年 1 月, pp.21-24. 査読無
- ⑪ 村瀬公胤・谷塚光典・三ツ井邦仁 「教員養成初期段階における授業研究指導の試み—学部と附属の連携による臨床基礎実習生の指導のあり方の検討—」, 『教育実践研究』(信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要) 第 6 号, 2005 年 9 月, pp.141-150. 査読無
<http://hdl.handle.net/10091/2592>

[学会発表] (計 9 件)

- ① 土井進 「総合演習 (米づくりと食育) における「信大茂菅ふるさと農場」の教材学的意義」, 日本教材学会第 20 回研究発表大会, 成蹊大学, 2008 年 11 月 9 日
- ② 谷塚光典・東原義訓 「テキストマイニングによるティーチングポートフォリ

オ分析の試みー教員養成初期段階の学生のリフレクションの特質ー」。日本教育工学会第 24 回大会, 上越教育大学, 2008 年 10 月 11 日

- ③ 土井進・谷塚光典 「教員養成初期段階を中心とした教員スタンダードの開発ー信州大学教育学部における臨床経験科目の体系化を目指してー」。日本教師教育学会第 18 回研究大会, 工学院大学, 2008 年 9 月 14 日
- ④ 谷塚光典 「教員スタンダードに基づくティーチング・ポートフォリオの作成ー信州大学での I N T A S C の活用ー」(パネルディスカッション「教員養成と教員研修」)。第 71 回国立大学教育実践研究関連センター協議会, 埼玉大学, 2007 年 9 月 21 日
- ⑤ 伏木久始・山口恒夫・山崎保寿・越智康詞・武者一弘・村瀬公胤・東原義訓・谷塚光典, 蓄積する体験と深化する省察による実践的指導力の育成を目指した教員養成プログラムの実践。日本教育大学協会平成 18 年度研究集会, 千葉大学教育学部, 2006 年 10 月 14 日
- ⑥ 越智康詞・土井進・東原義訓・伏木久始・武者一弘・村瀬公胤・谷塚光典・山口恒夫・山崎保寿, 「教員養成 GP」への取り組みー信州大学のこれまでとこれからー。日本教師教育学会第 16 回研究大会(課題研究Ⅱ「『教員養成 GP』と教師教育」), 山梨大学, 2006 年 9 月 24 日。
- ⑦ Yatsuka, M., Higashibara, Y., Murase, M. 「How to Facilitate Student Teachers' Reflection on their Introductory Fieldworks in Schools and Communities with Electronic Teaching Portfolio」, Society for Information Technology and Teacher Education 17th International Conference, , 2006 年 3 月 21 日, 米国フロリダ州オーランド
- ⑧ 村瀬公胤・谷塚光典・土井進・山口恒夫・山崎保寿・越智康詞・伏木久始・武者一弘 「信州大学教育学部における臨床経験科目の体系化ー「臨床教育推進室」の設置を通してー」。日本教育大学協会平成 17 年度研究集会, 弘前大学, 2005 年 10 月 1 日
- ⑨ 村瀬公胤・土井進・谷塚光典 「教員養成初期段階における学生のリフレクションー信州大学教育学部附属松本学校園における「教育臨床基礎」の実践からー」。第 19 回日本教育大学協会全国教育実習部門研究協議会, 弘前大学, 2005 年 9 月 30 日

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
土井 進 (DOI SUSUMU)
信州大学・教育学部・教授
研究者番号: 30242663
- (2) 研究分担者
谷塚 光典 (YATSUKA MITSUNORI)
信州大学・教育学部・准教授
研究者番号: 30323231
- (3) 研究分担者
村瀬 公胤 (MURASE MASATSUGU)
信州大学・教育学部・准教授
研究者番号: 20361602